

第2号議案 2019年度事業計画および収支予算案

I. 2019（平成31）年度事業計画

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

日本土壌肥料学雑誌（第90巻第2号～第6号および第91巻第1号の計6冊、A4判）、Soil Science and Plant Nutrition（Vol.65, No.2～No.6, Vol.66, No.1の計6冊、A4判）および2019年度静岡大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第65集）を刊行する。なお、2019年度より講演要旨集は冊子体を作らず、電子版とする。

(2) その他の刊行物

Springer社よりThe Soils of Japanを刊行する。博友社よりシンポジウムシリーズの刊行を予定している。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

(1) 「土と肥料」の講演会

2019年5月11日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「田んぼの土と肥料を考える～カリとイオウの不足を例として～」とし、講演者と演題は、中田均氏「富山県におけるカリ不足土壌の現状と課題」および菅野均志氏「水稻におけるイオウ欠乏の現状と対策」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

(2) 2019年度年次大会

2019年9月3日（火）～5日（木）、静岡大学農学部農学総合棟（一般講演）、静岡大学共通教育A棟（シンポジウム）および静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ（学会賞等授賞式・記念講演）において年次大会を開催する。学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は4日（水）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第64回日本土壌肥料学会賞3名、第24回同技術賞1名、第37回同奨励賞5名、第8回同技術奨励賞3名に各賞を授与するとともに、受賞者の記念講演を行う。また、論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

また、平成31年度日本農学賞・読売農学賞を受賞された馬建鋒氏（岡山大学）の受賞記念講演、さらにIUSS会長に就任された小崎隆氏（愛知大学）とJapan Prize（日本国際賞）を受賞されたRattan Lal氏（オハイオ州立大学）の特別講演を予定している。

平成 31 年度日本農学賞・読売農学賞受賞者

- ・馬 建鋒：作物のミネラル輸送機構に関する研究

第 64 回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・高橋 正：火山灰土壌の多様性の解明－アルミニウム-腐植複合体の機能を中心に
- ・豊田剛己：連作障害の原因となる土壌伝染性病原菌・線虫の生態、診断、防除に関する研究
- ・早津雅仁：土壌微生物の物質変換機構の解析とその未知機能解明への展開

第 24 回 日本土壌肥料学会技術賞受賞者

- ・原 嘉隆：水稲湛水直播のためのべんモリ種子被覆技術の開発

第 37 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・須田碧海：還元状態の土壌における有害元素の溶出・不溶化に関する研究
- ・西田 翔：大規模塩基配列解析技術を利用した植物の低栄養条件に対する適応機構の研究
- ・仁科一哉：マルチスケールにおける土壌の炭素・窒素循環の空間変動要因の解明および定量評価に関する研究
- ・増田寛志：鉄・亜鉛栄養価の高いイネの作出に関する研究
- ・横正健剛：イネのアルミニウム耐性と鉄輸送に関与する MATE 遺伝子の機能解析

第 8 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・齋藤 隆：農耕地における放射性セシウムおよび土壌残留性農薬による作物汚染低減技術の開発
- ・速水 悠：施設栽培果菜類における灌水および施肥の適正管理技術の確立
- ・安田知子：家畜糞堆肥化施設由来臭気の生物脱臭技術の高度化に向けた研究開発

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・金田吉弘、谷野弘和、高階史章、佐藤 孝、保田謙太郎：重粘土大区画水田における地下灌漑システム FOEAS が高温登熟条件下における水稲収量および外観品質に及ぼす影響
- ・松中照夫、中村亜紀良、橋本亜弓：酸性黒ボク土の酸性矯正による施与リンの肥効改善効果は黒ボク土やリン資材の種類によって変化する

SSPN Award 受賞者

- ・ Mei Li, Michiko Yasuda, Hiroko Yamaya-Ito, Masumi Maeda, Nobumitsu Sasaki, Maki Nagata, Akihiro Suzuki, Shin Okazaki, Hitoshi Sekimoto, Tetsuya Yamada, Naoko Ohkama-Ohtsu & Tadashi Yokoyama : Involvement of programmed cell death in suppression of the number of root nodules formed in soybean induced by *Bradyrhizobium* infection

(3) 支部大会等

- ・北海道支部：第 21 回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および 2019 年度秋季支部大会・支部総会(11 月下旬～12 月上旬、札幌近郊)を主催する。

また、第1回支部評議員会(6月上旬 北海道大学)、第2回支部評議員会(11月下旬～12月上旬、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。

- ・東北支部：東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(7/2～3 福島県相馬市)。
- ・関東支部：関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11/30 長野市生涯学習センター)。
- ・中部支部：第80回中部支部総会、第99回支部例会を開催する(11/27～28 名古屋大学)。また、第164回支部評議員会(日程・場所調整中)、第165回支部評議員会(11/27 中部土壌肥料研究会と同時開催 名古屋大学)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12月初旬)および支部役員会(講演会の翌日)を鳥取市で開催する(日程、会場は未定)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、2019年度支部常議員会並びに支部総会を開催する(8～9月 長崎県)。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第65回日本土壌肥料学会賞、第25回同技術賞、第38回同奨励賞、第9回同技術奨励賞、第9回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本学術会議公開シンポジウム「サステイナブルな社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和(日本学術会議講堂 4/12)」を協賛する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会(EGU:ウィーン 4月)に代表者を派遣する。
- ・日本地球惑星連合(JpGU)2019年連合大会セッション「Materials transport and nutrient cycles in watersheds; from headwaters to coastal seas」(5月)を共催する。
- ・国際会議「International Workshop on Environmental Engineering 2019」並びに同時開催の第29回環境工学総合シンポジウム(6/25～28)を協賛する。
- ・第56回アイソトープ・放射線研究発表会(7/3～5 東京大学弥生講堂)を協賛する。
- ・IUSS WRB Workshop(モンゴル・ウランバートル 7月)に代表者を派遣する。
- ・日本国際賞受賞のRattan Lal教授を招聘し、特別講演会を開催する(9月)。
- ・9th ESSC International Congress(9月)に代表者を派遣する。
- ・ラテンアメリカ土壌科学会(ウルグアイ・モンテビデオ 10月)に代表者を派遣する。
- ・ESAFS(台湾・台北 11月)に代表者および役員を派遣する。

5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①静岡大会において高校生による研究発表会を実施する（9/3～5）。②自然観察の森に土壌断面の説明等が書かれた野外解説板を設置する（場所未定）。③教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所未定）。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。
- ・広報委員会：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②メールマガジン等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロダクツ 2019 にブースを出展する（2019.12）。
- ・男女共同参画学協会連絡会：連絡会が行う企画に参加する。

6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。